

令和 2 年度

1 自己評価及び外部評価結果

事業所名： グループホーム 和や家～なごやか～

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0392100111		
法人名	株式会社 介護いわて～和や家～		
事業所名	グループホーム 和や家～なごやか～		
所在地	〒028-4421 岩手県岩手郡岩手町大字一方井第4地割10番地		
自己評価作成日	令和2年11月9日	評価結果市町村受理日	令和3年2月5日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域や周りの環境を活用し、行事や外出で利用者様に楽しんで頂ける工夫をしている。昔やってこられた漬物つくりや干柿作り、季節の行事、手仕事を作業で沢山取り入れている。
 体調管理に関しては、主治医、訪問看護ステーション、薬剤師と連携を図り、利用者様のペースに合わせ、その人らしく暮らせる工夫をしている。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhyou

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

地区に介護関係の事業所がなく、住民から開設が待たれていた事業所である。開設以来、地域交流に積極的に取り組み利用者の散歩中に声をかけて頂いたり、米、野菜等の差し入れを頂いたり、収穫祭には、地域の方が臼・杵・蒸した餅米持参で餅つきを共にしたりしている。コロナ禍により、利用者は外出を控えており、内部で出来る作業を工夫し、昔作っていた漬物、干し柿づくりを行なっている。今年は畑作業に重点を置き、小豆、大豆、里芋等々農業経験のある利用者が力を発揮し、歩行に難のある利用者も、ささがえ採りに歩いたことを喜びとしている。かかりつけ医、訪問看護ステーション、薬剤師と連携を図り、適切な医療と健やかな生活を支援している。また、かかりつけ医や関係機関と連携を図りながら、家族とともに看取りを実施している。職員は、理念にある「笑顔」を、利用者や地域の方々、そして同僚と共有しながら実践している。今後も、質の高い利用者サービスが期待できる事業所である。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号
訪問調査日	令和2年12月8日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念を「笑顔」とし、職員は一日一回は笑顔を引き出せるよう日中のケアに取り組んでいるが、どんな事で笑顔になったかなどの共有はできていない。漠然としていた。	職員で策定した事業所理念「笑顔」を実践するため、1日1回利用者の笑顔を引き出せるよう実践に努めている。管理者は、どのような時に笑顔になったかを、職員間で共有できる取り組みをしていきたいと考えている。	職員は、理念の「笑顔」は利用者のみでなく、職員の「笑顔」も大切にしている。笑顔を引き出した実践例を書きとめ、利用者個々の介護計画に反映されることを期待します。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	今年は新型コロナ感染予防のため、地域の高齢者を対象とした介護予防いきいきサロンへの参加はできていない。地域の方々との顔を合わせる機会は減っているが、季節の飾りをいただいたり、少しでも交流が途絶えないよう工夫している。	地域の方から、菖蒲、ミズキ、七夕の笹、月見のススキ等、季節毎に差し入れがあり、昔ながらの慣習を味わっている。コロナ禍で地域の活動に参加できないているが、地域との関係性は深く、普段から野菜の差し入れもある。11月の収穫祭には、自宅で蒸かした餅米を持参し、杵・臼で餅つきをして利用者と楽しみを共にしてくれている。地域に協力者がいることを事業所では心強く感じている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ禍の中で、地域の方々に認知症の人の理解や支援の方法をどう伝えていけばよいか、考えているところである。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	新型コロナ感染予防のため、今年度は、書面開催としている。資料を送付し、意見を募っている。	今年度は、コロナ禍のため書面会議とし、利用者の状況、ひやり・はっと、行事の報告・予定等を報告し、返信用封筒を同封し意見を頂いている。事業所行事の企画に際しては、委員の意見もいただいている。	運営推進会議の委員は、行政、町社協、地域住民、民生委員で構成されていますが、利用者及び家族を委員に加えることを期待します。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域ケア会議に参加して意見交換を行っている。	地域ケア会議(町主催)は、テーマ別に開催されており、今年度は1回参加している。町の介護情報をいただいたり、事業所相互の情報交換や福祉機器の説明会なども行われている。生活保護の担当者の訪問もある。町担当課との連携は図られている。		

令和 2 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム 和や家～なごやか～

自己	外部	項目	外部評価	
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	事業所内の研修を行い正しい理解ができようになっている。玄関の施錠をせず、自由に出入りできるようにしている。	「身体拘束廃止委員会」は全職員が委員となっている。指針を作成し、研修会を定期的開催している。玄関は夜間のみ施錠している。外出傾向の利用者は、長期間にわたり外出時に同行していたが、職員の対応、声掛け等のケアで、不安なく一人での外出を可能にした。現在は「散歩して来る」と断って出掛け、何も帰っており、段階を経た利用者本位の支援が成功した事例である。スピーチロックと思われる言動には、管理者等が「先ほどのケアはまずいね」と注意し、他の職員がフォローしている。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止のマニュアルがある。虐待しないケアを目指し注意を払っている。年1回は職員対象の研修会を行っている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護、成年後見制度を学ぶ機会を持っていない。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者様やご家族様に、理解、納得して頂けるよう丁寧に時間を取って説明している。説明の際は可能な限り複数名で行っている。	
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	投書箱は設置しているが家族や外部からの投書はない。面会時に意見などを聞けるように取り組んでいる。	家族から、面会時に意見を聴いている。利用者家族に、2ヵ月毎に発行している事業所のお便り「グループホーム～和や家～」を送付し、意見等をいただいている。事業所独自のアンケートの実施を考えたいとしている。

令和 2 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム 和や家～なごやか～

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	事業所の会議に、常務に出席してもらい、現場の意見を聞いていただいている。	事業所の会議に本部役員が出席し、職員の意見を聞く体制を採っており、日常の業務に必要な事柄には、直ちに応えている。現在、事業所の敷地が砂利敷きとなっており、車椅子での移動や緊急時の迅速な避難に影響を及ぼす可能性があるため、事業所周辺の環境整備について、引き続き提言していきたいとしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回の人事考課を取り入れている。また、資格手当を設けるなど、各自が向上心を持って働けるようにしている。資格取得のための研修補助も行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の希望や、力量など考慮し、実務者研修や初任者研修を受講してもらった。施設内研修も月1回は行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域密着型協会に加入しているが、新型コロナウイルス感染防止のため、交流会や勉強会がなく、交流できていない。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	コミュニケーションをメインとしたケアを心がけ、不安な事、困っていることを話せるような環境作りと対応に努めている。センター方式のアセスメントを行い、本人の思いを把握するようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	話を伺う事を重視し、なんでも話せる環境作りと対応を心掛け、お話しできる機会を増やせるよう努めている。		

事業所名 : グループホーム 和や家～なごやか～

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	在宅でのケアマネや家族、主治医など可能な限り複数から、情報を得て適切な対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事の準備、洗濯、掃除などできることを少しでも職員と行えるようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会や電話などで、ご本人の状態を伝えながら、ご家族の意向を伺い、必要に応じ面会を促している。遠方の方やなかなか訪問できない方は、テレビ電話を使用して、顔を見て会話していただいている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	事業所で積極的に、連絡を取り関係性が途切れないようには取り組めていない。馴染みの方が訪ねてきてくださったときの受け入れのみである。馴染みの方の把握をしていきたい。	入居時に、馴染みの関係を聞き、介護計画に取り入れている。日々の生活の中で把握した馴染みの関係について職員間で共有している。「同級生に会いたい」との利用者の話から、職員の知人をたどり事業所の祭りに来ていただき、再会を果たしたこともある。訪問理容(月1回)も馴染みの関係になっている。コロナ禍で、家族との面会もままならない状況である。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員間で情報共有し、利用者同士がトラブルなく楽しく過ごせるよう職員が調整役となっている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	特に看取り対応を行った時は自宅を訪問するなどして、ご家族の思いを伺っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ケアマネジメントシステム「ライフサポートワーク」の暮らしまとめシートの活用、本人への聞き取り、日常会話などから、希望、要望、意向の把握に努めている。	ケアマネジメントシステム「ライフサポートワーク」の暮らしのまとめシートを活用し、利用者の意向や生活歴など、きめ細かに把握している。	

令和 2 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム 和や家～なごやか～

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族からの聞き取りや日々の会話の中で把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常生活の中で心身状態の観察、作業の提供で、できることの発見に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、担当職員を中心としたカンファレンスやモニタリングを行い、本人の思いを汲んだ介護計画作成に努めている。	3ヵ月毎に、モニタリング、アセスメントを行い、利用者の現状や家族の意向を丁寧に把握している。カンファレンスには利用者、利用者家族(電話で意向確認の場合もある)、利用者担当職員、管理者が参加し、関係機関と連携を図りながら、きめ細かな計画を作成している。計画を職員間で共有し、質の高いケアの提供に努力している。	ケアカンファレンスに利用者が参加し、利用者の意向に沿った計画が作成されていることが窺われ、高く評価します。今後も、利用者参加のカンファレンスを継続されることを期待します。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録や申し送りノートで情報共有できるように心がけている。具体的に記録するようにしているが職員間での情報共有は不足しているところもある。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	病院受診や訪問看護の対応など、急な依頼も対応できるよう取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	行きつけの理美容院を継続して利用し、可能な限り知人、親戚の面会を認めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	心身の状況を家族に伝えるだけでなく、受診までの様子を文章や電話で医療機関に報告している。家族とのやり取りはできている。	6名の利用者は3ヵ所の訪問診療医をかかりつけ医としている。3名の利用者は、家族がかかりつけ医へ同行している。かかりつけ医とは連携が図られている。訪問看護ステーションの看護師が、日常的な健康管理を担っている。	

令和 2 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム 和や家～なごやか～

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	適切な受診ができるよう、訪問看護に状態変化の相談している。情報共有するため、報告書を作っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	受診の相談や状況の変化などの相談をふまえ、こまめに連絡をとり、関係づくりに努めている。入退院時は、情報提供を医療機との電話や書類で行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期に向けたあり方の方針やマニュアルを作成し事業所内で研修を行っている。	重度化や終末期の対応について指針を策定し、入居時に、利用者家族に重度化した場合の対応について説明している。急変時を含め、終末期の意向を段階を経て家族に確認しながら、今年は1名の看取りを行なっている。看取りの後の職員アンケートでは、不安を感じたとする一方で、家族の意向に応じてやり遂げた思いも挙げられている。訪問看護ステーションの協力のもと、看取りに関する勉強会を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時、事故発生時のマニュアルを作成しているが、定期的な確認や訓練は行っていない。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	今年度は7月に1回目の火災時の避難訓練を行った。地域との協力体制はできているが、再確認必要。夜間に火災発生を想定した訓練ができていない。	今年7月に消防署と職員、利用者で火災想定避難訓練を行なった。次回は、夜間想定避難訓練を予定している。町の水害等のハザードマップでは安全地帯とされているものの、利用者の状態を考慮した場合、指定の避難場所への速やかな避難は困難と思われるため、事業所としての新たな避難場所を検討している。	これまで、夜間想定避難訓練を実施しているが、今後は、実際に夜間に訓練することを期待します。避難道路ともなる玄関前の広場(駐車場)の舗装について検討されることを期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	特に排泄支援時の職員の声かけは、常に尊重を意識するようにミーティング等で職員の指導を行っている。利用者様一人一人に合わせた声かけを心がけている。耳の間こえずらい方への配慮した声かけの仕方が課題である。	利用者個々の生活習慣や嗜好に配慮した対応を心掛けている。利用者の「嫌いなこと」を職員間で共有し、プライバシーを損ねない言葉かけに注意している。入浴や排泄の介助時には、利用者との相性に配慮している。聞こえずらい利用者への声掛けを課題とし、特に排泄誘導の在り方等を検討し、工夫しながら対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	出来るだけ本人の希望に沿うようにしながら、迷った時は提案、助言をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れはあるが、その日どう過ごすかは本人の自主性を重んじている。活動や作業を本人に話をし、できる範囲で支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみは、声かけで可能な限り、ご自身で行ってもらっている。できない部分の支援をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	材料を切っていただいたり、盛り付けを手伝っていただくなど、関わっていただいている。リクエストを聞き、メニューに取り入れている。片付けも毎回職員と行っている。	食事の献立は利用者の食べたい物(焼肉、刺身など)を聞き取りしながら、1週間分を職員が作成している。職員が調理し、利用者は食材の下ごしらえ、配膳、片付けを手伝っている。地域の方々の差し入れや畑の新鮮な野菜も食卓に供している。おやつのスウィーツバイキングを喜び、ホットプレートでの焼肉を楽しみにしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分摂取量を把握し、体調変化の有無をチェックしている。好きなものが飲めるよう種類を多く用意している。毎月体重測定を行い、変化を確認している。大きな変化が見られる時は主治医や訪問看護に報告している。		

事業所名 : グループホーム 和や家～なごやか～

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	声がけにより行っていただき、不十分なところを支援している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、排泄パターンの把握に努めている。自尊心を損なわないよう、声がけ誘導し、トイレを利用して頂いている。尿失禁の様態を把握して個々に合った排泄用品を使用している。例えば、布パンツにパット、リハパンにパット、夜間のみオムツなど。	排泄機能の維持・改善を目標に、トイレでの排泄を支援している。排泄チェック表により排泄習慣を把握し、利用者個々の排泄支援を徹底している。尿取りパッド等の排泄用品は、利用者の状態に合わせて検討し、使用している。夜間のみポータブルトイレを使用している場合、プライバシーに配慮して入り口から見えないように配置している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便状況の把握を行い、一日の中に体操を取り入れ活動を促している。食事では毎日、乳製品を取り入れている。米飯には麦を入れ食物繊維を多く取り入れるよう努めている。副食には野菜をたくさん利用している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	手薄になる夜は入浴していない。すべての利用者様の希望通りには行かないが、入浴の際はゆっくりと入浴して頂いている。入浴回数は本人の意向に沿うようにしている。	入浴は、月・木は休みとして基本週2回入浴するよう支援している。希望により週3回の利用者もいる。季節には、地域の方から差し入れの菖蒲湯を楽しんでいる。皮膚疾患の方は足浴をしている。入浴介助にあたっては、利用者との相性にも配慮している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活習慣に合わせた就寝時間や日中の休息を支援している。部屋の温度、寝具などの個々に合わせ支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の目的、副作用をいつでも確認できるよう内服薬の説明書のファイルを用意している。変更があった場合、症状の変化など記録し、医療との連携に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	月ごとの行事や誕生会、作業などで役割を持ち、メリハリある生活を送っていただけるよう努めている。		

事業所名 : グループホーム 和や家～なごやか～

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。 又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族の了解や協力が得られた場合、できるだけ自宅へ行きたい思いをかなえている。季節折々には外出して自然と触れ合えるようにしている。自宅へミウガを収穫に出かけた人もいる。	コロナ禍で外出が制限されている中、事業所周辺の散歩や庭のベンチでの外気浴、畑の作業を積極的に実施している。庭での昼事会、バーベキュー、収穫祭など、食を外で楽しむ機会を増やしたり、複数回石神の丘へドライブしたり、紅葉狩りのドライブも行っている。職員が長い間見守り同行等で支援してきた利用者の一人は、現在では付添いなく散歩できている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	手元に持っていたいという方に関しては、家族と相談し少額手元に置き、必要時支払いしていただいている。自己管理できない方については、お預かりして必要時購入支援をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	希望がある時は、援助しながら事業所の電話を利用して頂いている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節にあった装飾を利用者様と一緒に作成し飾っている。季節の花を活け飾っている。一年を通して温度や湿度の管理には気を付けている。	居間などの共用空間は、温度計、湿度計を設置し、適切な生活環境を維持している。居間の装飾に、地域の方から、小正月のミズキや七夕の笹、十五夜のすすきなど、季節の物を提供していただいている。壁には、利用者と一緒に作った装飾品が飾られている。今は、サンタ、ツリー等でクリスマス仕様である。大型のテレビの前に三方からソファを配置し、利用者それぞれの定位置を尊重し、トラブルのないよう見守りしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファ、食堂テーブルなど、本人のペースに合わせ過ごしていただいている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用していたものや、家族の写真などを飾り、施設でも自宅の面影を取り入れ過ごして頂いている。	居室は、家族の写真を飾ったり、テレビや座椅子を置き、利用者の思いに沿った配置にしている。	

令和 2 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム 和や家～なごやか～

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	転倒リスクのある方は、タンス等の位置を工夫し安全な動線を作っている。トイレに「トイレ」と名札をつけ、場所が分かるようになっている。玄関に椅子をおき、立位が不安定な方が安全に履物の交換ができるようにしている。		